

関東平野の秋は深い
青空の下にひろびろと



こんにちは、あずまです。今日は健一さんと一緒に加須の街をレンタサイクルで観光してきました。これは玉敷神社の神楽殿。300年以上の伝統がある神楽は、年に4回披露されるそうです。この神社はまた、樹齢400年のフジが有名で「百畳敷き」といわれるほどに枝を広げるそうです。(MAPの①)

今回の登場人物



東 健一

あずまのボーイフレンド。環境工学を専攻する大学院生。スキーをはじめスポーツも得意。



業平あずま

業平家の長女。母親が経営する小学生向け英会話教室を手伝う。趣味は旅行。



北千住から急行で久喜まで約40分。普通電車に乗り換えて約10分ほどで「加須駅」に到着。駅北口から徒歩3分の加須市商工会館でレンタサイクルを借りられますよ(無料)。

加須

(かぞ)

埼玉県の東北部に位置する「加須」の町は、東武伊勢崎線の急行を利用して北千住から約1時間...という行楽距離にあります。加須といえば、名物「加須うどん」や伝統的「鯉のぼり」づくりで有名ですが、さらにその自然環境も歴史文化も、奥が深い。駅を起点に見どころは広範囲に点在しています。秋の1日、1か所集中型でそぞろ歩いても面白いし、バスを活用してもいい。最近は無料の貸し自転車で、効率よく散策する人たちも増えました。



昔ながらの田園風景を残し、クヌギ並木が素敵な「浮野の里」。6月中旬からは「あゆめ祭り」が開催され、女船頭さんが漕ぐ「田舟遊覧」で花菖蒲を楽しめるそうです。1995年度には全国「水の郷百選」に認定されました。(MAPの㉔)



ここは旧加須村の鎮守、平芳神社。社名は平将門の乱の鎮定で活躍した藤原秀郷の六男、千方を祀ったことに由来するとか。毎年11月23日には「加須えびす祭り」が開催され、サンマやけんちん汁が振る舞われるそうです。(MAPの㉕)



ここは不動ヶ岡不動尊 総願寺です。2月3日の「節分会魁追い豆まき式」は、荒々しいことで有名です。この黒門は、現在公開中の映画『のぼうの城』に登場する、忍城の北谷門を移築したものだそうです。(MAPの㉖)



コノキ・ミクオの作品約100点を中心に、田部井仁市氏が所蔵する絵画や彫刻を展示する、2009年6月にオープンしたばかりの「ほくさい美術館」です。座ってゆったり鑑賞できるのも、この館の特徴のひとつです。(MAPの㉗)

秋色に染まる田園に 歴史的面影を残す佇まい。

加須の歴史は縄文時代にまで遡り、江戸の頃には利根川の水運や、中山道と日光街道を結ぶ脇往還の宿場町として栄えました。往時の面影を探すならまず「不動ヶ岡不動尊 総願寺」へ詣でましょう。建立は1616年。昔から関東三大不動の一つとして賑わい、現在も節分会など伝統行事の盛況ですが、テレビでも紹介されているほどです。時代を経た本堂はもちろん、いまはなき名城・忍城の「黒門」が行田市から移築保存され、趣を添えていますから注目。また、名物の加須うどんもかつて不動尊を参詣する人に振る舞われたことが始まりになったといわれます。

そもそも、この総願寺がある加須駅の北口一帯は、由緒ある文化財が多い地域です。メインストリートの横には、古き加須の鎮守「千方神社」があったり、住宅街の細い路地の奥で、あの円空が彫った「不動明王坐像」を発見したりします。

一方、田園風景に触れるなら「浮野の里」は穴場的な存在です。そこは、緑のトラスト保全地区、懐かしい武蔵国の里山が保存されています。小川が流れ、ヨシが茂り、四季折々の野草たちが自生する。美しく紅葉したクヌギ並木のプロムナードなど、秋ならではのロマンです。

芸術の秋に親しみたい人は、ちょっと寄り道すると「ほくさい美術館」。マルチャーティストとして活動するコノキ・ミクオさんの作品を中心にコレクションするミュージアムですが、企画展にも意欲的。ちなみに「ほくさい」とは北斎のことではなく、埼玉県北部の北埼玉を意味します。



埼玉県環境科学国際センターの展示室にやってきました。これは環境に優しい「エコドライブ」を、ゲーム感覚で学べるもの。ほかにも環境問題を学べる楽しい仕掛けがいっぱい。広大な生態園では自然観察も楽しめますよ。(MAPの⑥)



駅の南側をひた走っていると、天守閣がそびえるお城が！騎西城です。土塁や堀をめぐらした平屋の館だったそうですが、それを天守閣をもつ城として復元させたそうです。中は郷土史料展示室になっていますよ。(MAPの⑦)



玉敷公園と騎西生涯学習センター「キャッスルきさい」を結び約1500mの遊歩道は、「ふじとあじさいの道」として整備され、藤棚にフジが、そして約1万本のアジサイが開花するそうです。今度は6月の加須を訪れたいな。(MAPの⑧)



大宝3(703)年創建といわれる式内社の玉敷神社。ここはフジの名所としても有名です。樹齢400年のフジの巨木は、「百畳敷き」といわれるほどに枝を広げています。さらに隣接する玉敷公園ではサクラも楽しめますよ。(MAPの⑨)

**癒しスポットあり…絶景スポットあり…
未来スポットへも行ってみたい。**

一方、加須駅の南口に降りると、ごく普通の市街地に見えますが、その奥(騎西・鴻巣方面)へ向かえば、まだまだ面白い見どころがたくさんあります。次ページのマップ片手にたどりましよう。たとえば、「埼玉県環境科学国際センター」は少し遠出しでも見る価値あり。名の通り、環境問題を科学的な視点から研究し、情報発信する総合の中核機関です。広大な敷地には森や水田まであって、生息する生き物たちとも触れあえます。展示館は実際に体感したり、ロボットが解説してくれたり、楽しみながら明日の生活を考える、子どもたちにも人気の未来志向空間です。

また、このルート上にある騎西生涯学習センター「キャッスルきさい」は、昔の「騎西城」跡。築城は不明ながら、歴史上に登場するのは1455年とか。現在の小さな天守閣をもつ城は1975年に建てられたもの。城内には郷土史料展示室があります。特に天守閣からの展望は見事。思わず殿様気分、絶景じゃなく！と言ってしまう。

次に会おう「玉敷神社」は静寂にまつまれた江戸神楽の源流を伝えることでも知られる古社ですが、樹齢約500年の大イチョウや鬱蒼とした樹々の中、憩うひとときは格別です。

そして、キャッスルきさいと玉敷公園を結び「ふじとあじさいの道」は、藤と紫陽花が彩る美しい散策路。約1.5キロも続く名所です。もちろん今は望めませんが、快く吹く風が、「また花の季節にもいらっしょ」と、優しくさざやいているように。

